

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価の調査項目です)

取り組んでいきたい項目

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	いつも意識できるよう玄関と共同トイレに理念を掲げ、全職員が周知している。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人の理念を付け加え掲示し、毎月1日のミーティング時に唱和している。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	玄関に掲げ家族や地域の方が来られた時、口頭で説明し、理解して頂くよう心がけている。施設見学者にはパンフレットを配布し、理念を理解して頂くよう説明している。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日頃から外出する際、挨拶はできている。開設5年経過し、地域の方から声をかけてもらうことが多くなり、施設内行事(食事等)にはお誘いすると参加してくれたり関わりはできている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学生による仕事体験学習等の訪問があり利用者は大変喜ばれている。その後放課後にも再度訪問があり利用者の喜ばれる姿を拝見する。地域の絵会や敬老会に参加している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	福祉に関わる後援会などのポスターを掲示し、暮らしに役立つ情報を提供できるように努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	会議時外部評価について分かち合えるように外部評価の経験者の話を聞いて理解を深めるようにしている。全職員が周知できるよう見直しを行い改善に努めている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回家族代表・包括支援センター・市担当者・利用者・地域代表・施設長・白梅職員にて実施している。参加者よりいろいろな情報を得たり、意見を聞いたりしてサービスの向上につなげるよう心がけている。		H20.10月より利用者・H21.1月より市担当者の参加を得て交流を深め、顔なじみになりつつあり、これからも継続して案内していく。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	集団指導やグループホーム部会の研修に参加している。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在権利擁護に関する制度を利用する方はいないが、職員は内外研修に参加し、理解を深めるよう努めている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員には内外研修に参加してもらい、学んでもらえるよう働きかけをしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の事前説明や契約時、文書を示しながら十分な説明の下で理解を得てもらっているが、質問等がある際は再度説明して理解を得ている。契約時は管理者、場合によっては職員1名同席して対応している。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回の常会を開き利用者の要望・困っていることを個別に聞いて職員が把握できるようノートに記入し早めに改善できるよう職員間で話し合い対応している。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回近況報告を作成し面会時に渡したり、郵送して日頃の生活状況・健康状態・個人預かり金(3か月毎)を報告している。体調面の変化時は早急に電話にて報告している。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に御意見箱を設置している。直接言いづらい内容は会長(家族会)へ報告してもらいあとで職員へ伝達してもらうようお願いしている。契約時、国保連・法人本部・久留米市長寿介護課にも苦情窓口があることをお伝えしている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	いつでも職員の意見・案を聞き入れ、後にみんなで話し合う場を設けて反映させている。管理者でも判断が難しい内容の場合は同じ法人のグループホームの管理者もしくは本部に連絡し、アドバイスを聞いている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員みんなで話し合い利用者の生活状況に応じて勤務を調整している。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動の際には利用者の心身に配慮し、事故等がないように努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>採用に関しては法人運営者の指示によるが、管理者の意向も考えた上で採用している。職員の仕事に対する姿勢を受け止め一人一人の個性を大切にしている。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>人権に関する意識を持って仕事をするために内外研修に参加するよう努めている。</p>		<p>21年度、カリキュラムに沿った内部研修を計画している。</p>
21	<p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>自ら研修参加したいと申し出があった場合は勤務変更等をして参加してもらっている。勤務年数に応じた内容の研修に参加してもらうように努めている。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>随時グループホーム部会や集団指導に参加し、顔なじみになりつつある。</p>		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>話しやすい雰囲気作りを心掛け利用者と職員合同での新年会や忘年会を設け施設内でイベント(食事会)を行っている。</p>		
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員の仕事に対する考え等を聞き、その中でお互いが分かち合えるよう努めている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	受容する姿勢を心がけ利用者の不穏時等は個別にその時に話を聞くようにしている。希望があったらいつでも電話できるように個別に対応し安心できるよう支援している。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	随時入居前後の面会で相談に乗り、より良い介護方法を家族と職員で検討し対応している。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談があればなるべく早く対応し職員皆で検討し改善できるように随時話し合い対応している。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族が納得した上で入居に繋がるように密に関わる時を設けたり、生活に慣れるまで家族にも面会の協力を得ながら努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一番に会話をするを大切にすることに心がけている。他人同士の集まりであっても遠慮されず言いたいことを言い合える時もあり、職員の存在を頼りにしてくれている。職員も人生の先輩のアドバイスをもらい、いい関係を保っている。		
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	電話時や面会時に生活のエピソードなどを話し喜怒哀楽を共にするようにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	常々家族間の関係は最大限に気配りよりよい関係が継続できるように支援している。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が希望する際には遠方の子供さん等に電話して安心してもらえるよう、いつでも電話してよいことを随時伝えている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個々の性格等に配慮しながら関わりを持てるよう支援している。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後や入院先へお見舞いに行ったり、法人全体でのイベント時はお話したり挨拶を心がけ交流をしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	随時要望があればなるべく早く対応できるよう検討し、利用者の表情を十分に観察しながら努めている。		
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式(生活歴)の一部を家族にお願いし、その方の性格等を把握し利用者、家族のお願いのもとにサービスに繋げている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	生活に慣れるまでは本人の状態観察を行いその都度状態変化がある場合は記録や申し送りをし把握に努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃から家族や本人の願いを会話の中で知り、意見を取り入れた課題を決め介護計画を作成し本人や家族に説明し同意を得ている。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態変化時は早急に本人、家族、関係者との話し合いの上新たな介護計画を作成し本人や家族に説明し同意を得ている。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌、個人記録に記入し職員間の情報の共有ができています。利用者の関わりに気づき、提案があった場合は話し合いをし見直ししている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居して間もない利用者の場合は遠方の家族の方が1泊されたり、利用者の病状によっては家族も心配され宿泊をされたこともある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	小学生による訪問等の関わりはあるが今のところ警察、消防の協働はない。		防火管理者受講済みで防災避難訓練に関して消防署の立会いの下で指導を受けるよう検討中。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	以前はミニディを利用されている方はおられたが、現在ははない。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	いつでも地域包括支援センターに相談したり、アドバイスを受けられる環境は確保できている。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との情報共有関係を保ちながら適切な医療を受けられるように努めている。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医による治療が必要であるのか、各利用者の主治医に相談するようにしている。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	平成20年7月より看護師が在籍している。看護師とケアワーカーとの連携を密にして常態が悪化する前に随時協力病院へ連絡し指示を仰いでもらっている。		
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院の際は看護師、ケアマネージャー、管理者の3人のうちいずれかが病院へ出向き病院と情報を交換し早期に退院できるように相談し退院に向けて備えている。		
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	必要に応じて法人の特養を紹介している。		
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	平成20年10月に1名の方の看取りをした。その際は看取りの指針を作成しかかりつけ医、家族の協力を得ながら家族に理解してもらい同意を得もらった。初めての経験で不安等もあったが全職員の介護に対する思い、直接家族の思いなど伺い命の大切さを肌で実感し今回の看取りでさらにまとまりのあるチームができたと思う。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ケアマネージャーと情報交換し家族との話し合いの中で家族、本人が安心してもらえるよう支援している。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ひとり一人の個性を大切に尊厳を損ねるような声かけに十分に気配りながら対応している。個人情報保護法に沿っている。		
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	受容(待つ姿勢)を心がけ本人が発話しやすい雰囲気作りや役割(食前の挨拶)を持ってもらい本人の気持ちを重視した支援をしている。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別の生活リズム、年齢、体調を把握し理解した上で本人のペースを崩さないよう支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	散髪は月1回のペースで本人、家族に相談しながら随時行っている。家族の希望で外出し散髪されるところもある。買物でスキンケア用品等を購入に出かけたり、外出時化粧品をして本人に服装を選んでもらっている。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	プレッシャーにならぬよう声かけし材料の下ごしらえ、お茶くみ、配膳の手伝いをしてもらい生きがいへ繋げている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	日頃の会話の中で好まれる物等の話をしているので希望されてからなるべく早く提供できるように支援している為利用者は大変喜んでおられる。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンをデータに取り自立及び事故防止の為ベットサイドにトイレを準備し利用者が安心して自分でスムーズにできるよう排泄支援している。随時話し合いの中でパットの使い分けを検討し対応している。便失禁等した場合はいつでも入浴できる体制はできている。		
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に毎日の入浴を実施しているが本人の健康状態、本人の意思を尊重して対応している。(個別入浴計画を作成し本人、家族に説明し同意を得ている。)		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人の体調や希望に合わせてペースを崩さないよう支援している。個別に好まれる場所でのんびり休息してもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活の中で個別に得意とすることを継続して生きがいへと繋げている。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望者は2万円を預かるようにしており、手元に持っている方もおられ随時使用できるようにしている。預かり金は3ヶ月ごとに家族に報告している。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	随時希望を募って買物、散歩等に出かけている。急ぎでない場合は本人と相談し計画(予定日)を立てて対応している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	日頃の会話や利用者常会で外出希望を聞き計画を実施している。		
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	随時自由に電話をかけても良いことを伝えている。希望者には年賀状や絵手紙を書いて関わりを図っている。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	特に面会時間は決まっておらず夜間の訪問にも対応している。共有スペース(和室)にて過ごしてもらっている。		
(4)安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内外研修にて理解を深めるようにしている。常に拘束にならぬよう職員間で確認している。		継続して内外研修に参加して理解を深めていく。
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	現在鍵は使用していない。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	密に職員間の声かけをし所在確認をしている。記録する際は見守りをしながら記録に努めている。引き継ぎにて夜間不穏状態にある方は巡回時間以外にも気がけて様子を伺い対応している。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状態により、裁縫道具を持っておられる方もおられるが、ハサミ・針などは施設の物を使ってもらっている。洗剤等保管場所には鍵をつけている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ミーティング、会議等に事故報告やヒヤリハットの再確認を高め事故防止に努めている。		利用者の身体レベルを把握し事故の予測ができることを常々意識しながら密に声かけし努めていきたい。
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当のマニュアルを作成し会議時など看護師より指導を受け確認実施できるようにしている。		再度3グループホーム内でマニュアルの見直しをする予定。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎年避難訓練経験者と未経験者とのペアで火災避難訓練を行っている。終了後は反省会を設けている。		消防署の立会いの下で火災避難訓練を実施し指導を受けたい。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居時考えられるリスクを家族、本人に説明し理解をもらっている。リスクが現実にならないように随時本人に説明して支援している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックを行い申し送り、記録にて異変の早期発見に努めている。異変を感じたら看護師に報告し指示をもらい場合によっては、かかりつけ医に連絡し支持を仰ぎ対応している。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の目的、副作用、用法、用量について理解をしている。内服薬の一覧表を作成し把握している。薬の変更があった場合は申し送りをして記録している。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	かかりつけ医による下剤の処方であったり、排便を促す食物繊維の食べ物を随時提供している。十分な水分、適度な運動を取り入れ便秘予防に努めている。認知症が進んでいる方については家族に了解を得て日常生活の中で適度な運動を実施している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	個別に食前の歯磨きであったり、毎食後の歯磨きを実施し随時口腔チェックをして清潔を保っている。出張にて口腔ケアセミナーを受け知識を深め活かすようにしている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の体重減に気をつけ、体調に合わせた調理方法を行ったり、本人と相談して盛り付けを行い調節して提供している。バランスの摂れたメニュー作成でそれに沿った食事提供、水分量も確保できている。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアル作成し内外研修にて見直す機会を設けている。必ず外出後食前は手洗い、うがいをして予防に努めている。面会者にも協力してもらっている。緊急時のメニュー、備蓄品を準備している。		再度3グループホーム内でマニュアルの見直しをする予定。
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	日頃から調理器具の衛生管理、食中毒予防はできている。地域のスーパーから新鮮な物を配達してもらい食材の無駄がないように心がけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	民家を改装しているので一般住宅と変わらない雰囲気家族や地域の方は気がねなく訪問される。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	元々の民家を改装しているので一般家庭の風情はある。季節の花の香りや月ごとの展示物を飾り、五感で季節感を感じてもらっている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	体調不良時以外は殆どリビングで過ごされる方が多く狭いながらも和室やリビングでゆっくりと話せるスペースはある。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく家族には使い慣れた物を持参してもらうようお願いしている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	日頃から臭気が残らないよう随時十分な換気を心がけている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者には自立、安心して生活できるように清掃や室内点検を行い本人と相談しながら配置の変更を行っている。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本人の理解力に応じた話し合いの中で安心してもらえるよう個別に配慮し支援している。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	随時花壇には季節の花を植え華やかさを保ち、畑には季節の野菜を植えて収穫している。		

番号	項目	取り組みの成果 (該当する番号欄に 印をつけること)	
. サービスの成果に関する項目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない

番号	項 目	取り組みの成果 (該当する番号欄に 印をつけること)	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/>	ほぼ毎日のように
		<input type="checkbox"/>	数日に1回程度
		<input type="checkbox"/>	たまに
		<input type="checkbox"/>	ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/>	大いに増えている
		<input type="checkbox"/>	少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	全くいない
100	職員は、生き活きと働けている	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての職員が
		<input type="checkbox"/>	職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての家族等が
		<input type="checkbox"/>	家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどできていない